

## 国土審議会政策部会第3回集落課題検討委員会議事概要

### 1. 日時

平成21年9月25日（金）9：30～11：30

### 2. 場所

東京都千代田区霞が関 中央合同庁舎2号館地下1階 国土交通省第2会議室

### 3. 出席委員（敬称略）

奥野委員長、井上委員、岡崎委員、小田切委員長代理、辻委員、広瀬委員、  
深井委員、藤山委員、牧委員

※ 講師として特定非営利活動法人 NPO 推進青森会議の三上常務理事、株式会社ブ  
ランド総合研究所の上野取締役が出席。

### 4. 議事

#### （1）開会

#### （2）議事

[1] 人材の活動環境の整備、地域間交流の促進に関する課題について

① 人材の活動環境に関する課題について意見聴取

② 集落の活性化に資する地域間交流に関する課題について意見聴取

[2] その他

### 5. 議事及び主な発言内容

人材の活動環境の整備、地域間交流の促進に関する課題について、参考資料に基づき事務局から説明のあと、三上講師より資料3に基づき「中間支援組織」によるハンズオン支援と人材育成の取組についての発表、上野講師より資料4に基づき「集落の活性化に資する地域間交流のありかたについて～農商工連携等で求められる地域間交流とは～」についての発表があり、その後意見交換が行われた。

意見交換での主な発言は以下のとおり。

・農商工連携分野では、行政の支援策は充実してきているが、事業に対して手のあげ方がわからない、審査に通らないことから活動が尻すぼみになっていくところもあり、そうした地域への支援が必要。

・ものづくりでは、ものができたが売り方がわからない、情報発信の仕方に慣れていないケースをみている。ビジネスラインに乗せていけるかが今後、重要。

・人材を巡っては、各省庁の動きが出揃ったが、もう一歩進める段階にある。その点で、①人材のキャリアパスを具体的にイメージする仕組みとして、期限付き公務員で雇う仕組みの検討が必要、②窓口の一元化が言われているが、むしろ、いろいろな窓口で、いろいろな省庁がいろいろな施策を同時に出すことに意味があり、それを地域の主体が使い分け

ていくようなことが必要。ソフト事業については行政重複を認めるような理念づくりが重要、③都道府県行政は、普及指導員のはたらき、高知県の地域支援企画員制度など実績もあり、都道府県レベルで地元行政の限界をサポートする体制が重要。

・地域間交流について、産品購入→寄付→ボランティア活動に参加→地域経営に参加→地域に住むといった支援のステップを明示することが今後重要。

・コミュニティビジネスの分野では組織、人を認証する制度化の検討が必要。

・県に1つ中間支援組織があって県と連携して、支援や情報提供していく仕組みが必要。

・馬路村の例で言えば、かつて柳瀬杉というブランド品をもっていたこと、営林関係者が全国から集まっており「外の目」を持っていたことという素因が数十年前にあったと考えられる。人口1,600人程度でそう多くなかったが、村長をはじめ意識や活動が活発な村であった。

・全国いろいろな地域がある中で、地域特性を捉えた上で地域の将来ビジョンを作るには、柔軟性に富んだ思考ができる人が必要。そういった人材を育成するシステムを国として作り出すことが必要。

・効率的に人材育成を行うには大学とNPOが組むことが有効。基本的な財務、マーケティング、経営戦略など現場で必要なことについては、背景を理解してもらった上で大学にお願いし、座学と現場を両方使って行えばスピードが上がる。

・地域活動をサポートする外部人材の存在と人数の拡大が重要ではあるが、NPOだけで自身の生活をしていけるのかという不安を抱えている。地域づくりの実践を評価して、全国レベルでキャリアを持ってまわっていけるための支援が必要。地域に関心を持つ若者は多いので、こうしたキャリアスコープもあるというものをみせてあげられる仕組みが必要。

・各県毎や県の振興局等のレベルで、地域での相談や方策の提示をしてもらえるコミュニティビジネスをサポートする人材のプラットフォームつくっていくこと（これがキャリアパスの一つにもなる）を今後、検討していくことも重要。

・地域と地域外をつなぐNPOの存在が必要で、外から見られることで活力・誇りがつくられる。特産品開発について、人の関わりが重要。ブランド戦略の中で人の役割が希薄になりがちであるが、モノと人がうまく統合された地域が元気な姿を外に発信できることが理想。

・指定管理者制度など様々な取組で地域から手をあげることができるようになってきているが、現実には全国レベルの企業などが落札することも多い。この理由は、地域の人には申請書類の記述が困難なためである。地域を元気にしていこうという仕組みでありながら、地域に対してハードルを作ってしまう国の仕組みを乗り越えていかなければならない。

(速報のため、事後修正の可能性あります。)